

第10回 日本Whole Person Care 学術大会

**アートがもたらす医療の未来
～「医療はアート」ってどういうこと！？**

日時：11月9日（土）13:30-16:30



日本 Whole Person Care 研究会

Whole Person Care Association Japan (WPC-J)

本日の流れ

- 13:30** 挨拶・大会テーマ説明
- 13:40** 第1部 講演・鼎談
「アートがもたらす医療の未来」
- ①安次富隆先生・講演
 - ②鼎談（聞き手：大滝周、土屋静馬）
- 14:30** 休憩
- 14:40** 第2部 グループワーク
「臨床現場へのアートのまなざし」
- 15:55** 全体討議
- 16:25** まとめ・事務連絡

13:30~

開会挨拶

第10回大会長：土屋静馬
(研究会 代表世話人)



日本 Whole Person Care 研究会
Whole Person Care Association Japan (WPC-J)

バルフォア・マウント教授

“The Father of Palliative Care in North America”



1975年 マギル大学の大学病院のなかに、がんや慢性疾患の患者ケアのための
専門病棟を設置を世界で初めて設置

その病棟を“緩和ケア病棟”と名付けた

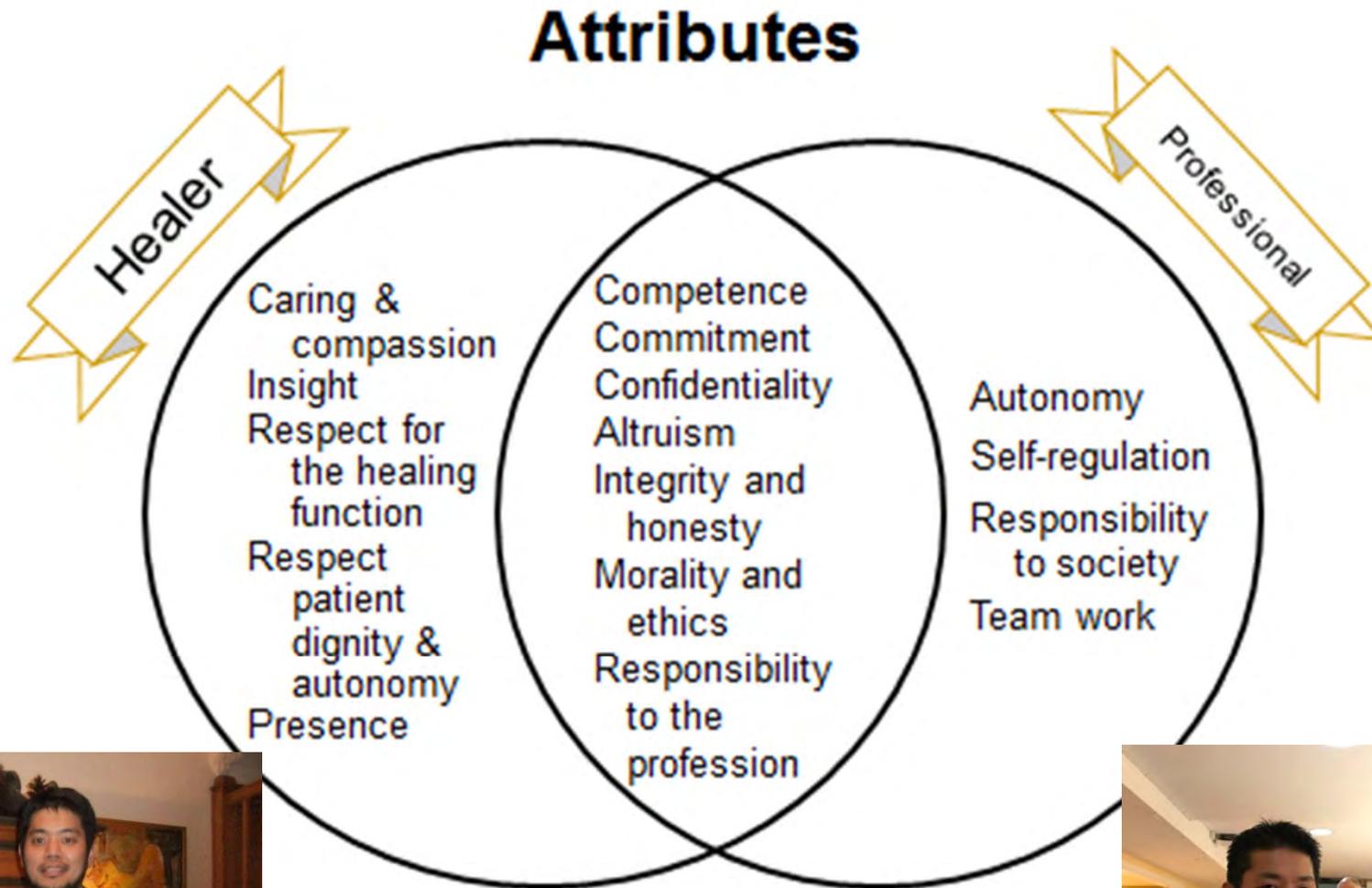
トム・ハッチンソン先生



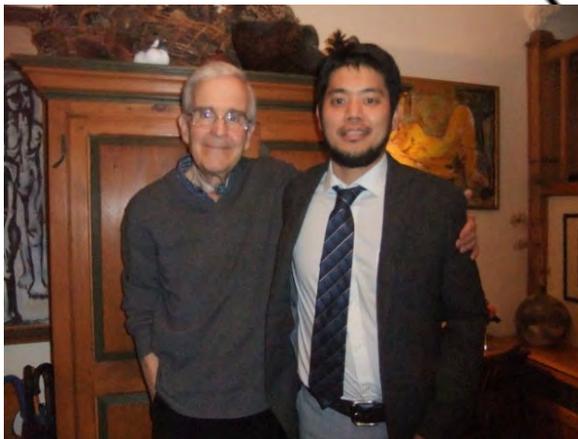
- バルフォア・マウント教授に師事
- 腎臓内科医
- 緩和ケア医
- 現在、Whole Person Care Program Director



マギル大学医学部の教育コンセプト



(Cruess & Cruess 2008)



Prof. Balfore Mount



Prof. Cruess & Cruess

マギル大学のWhole Person Careの教育

1年生：感化期 (inspiration)

医学部入学時に大部分の学生にある思いやりの精神を育む

2年生：準備期 (preparation)

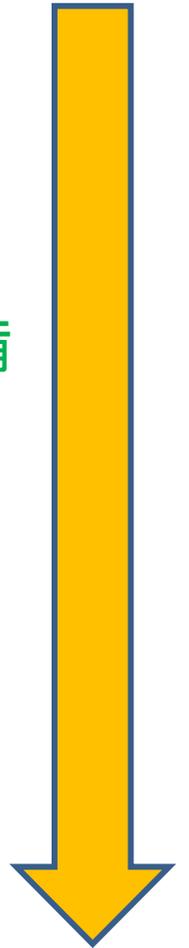
「Mindful Medical Practice (MMP) Course」で臨床実習への準備

3年生：適応期 (application)

日々の臨床実習への適応を促す

4年生：移行期 (transition)

自立した臨床医になるために「困難な事例」を体験する



Osler Fellow
(徒弟制度)

Mindful Medical Practice (MMP)

対象：医2年生

講義 1: 注意力と深い気づき

講義 2: コミュニケーションにおける調和のとれた態度

講義 3: 深い気づきと医療での意思決定

講義 4: 臨床的調和

講義 5: レジリエンスの育成

講義 6: 苦悩への応答

講義 7: 臨床実習以降のマインドフルネスにある
臨床的調和の実践

日本Whole Person Care研究会

第1回(京都大学): 設立趣旨、Whole Person Careの
ために明日から私たちができること

第2回(昭和大学): Whole Person Careって何!?
-臨床現場からの質問状

第3回(岡山大学): 多様なアイデンティティを共有しよう

第4回(富山大学): Whole Person Care の事例検討
とマインドフルネスの教育

第5回(京都大学): Whole Person Careのレシピ
-教育指針と教育方法

日本Whole Person Care研究会

第6回(昭和大学):医療における”癒し”とレジリエンス

第7回(岡山大学):東洋的視点・西洋的視点

第8回(札幌医大):医療者の心を守れ

第9回(京都大学):Whole Person Careとの出会い
と出会い

第10回(昭和大学):アートがもたらす医療の未来

その他、読書会(2か月に1回、第一金曜)、国際セミナー(年1回程度)開催

日本Whole Person Care研究会

第6回(昭和大学):医療における”癒し”とレジリエンス

第7回(岡山大学):東洋的視点・西洋的視点

第8回(札幌医大):医療者の心を守れ

第9回(京都大学):Whole Person Careとの出会い

第10回(昭和大学):アートがもたらす医療の未来

日本Whole Person Care研究会



日本 Whole Person Care 研究会
Whole Person Care Association Japan (WPC-J)

“白い蛇”
と
“黒い(ピンク)蛇”

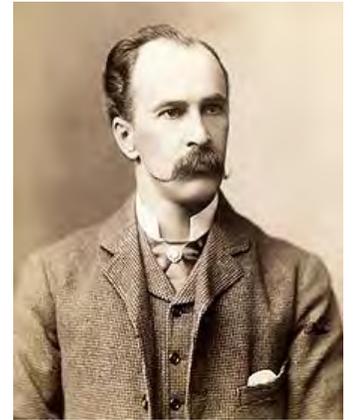
“Cure”
と
“Heal”



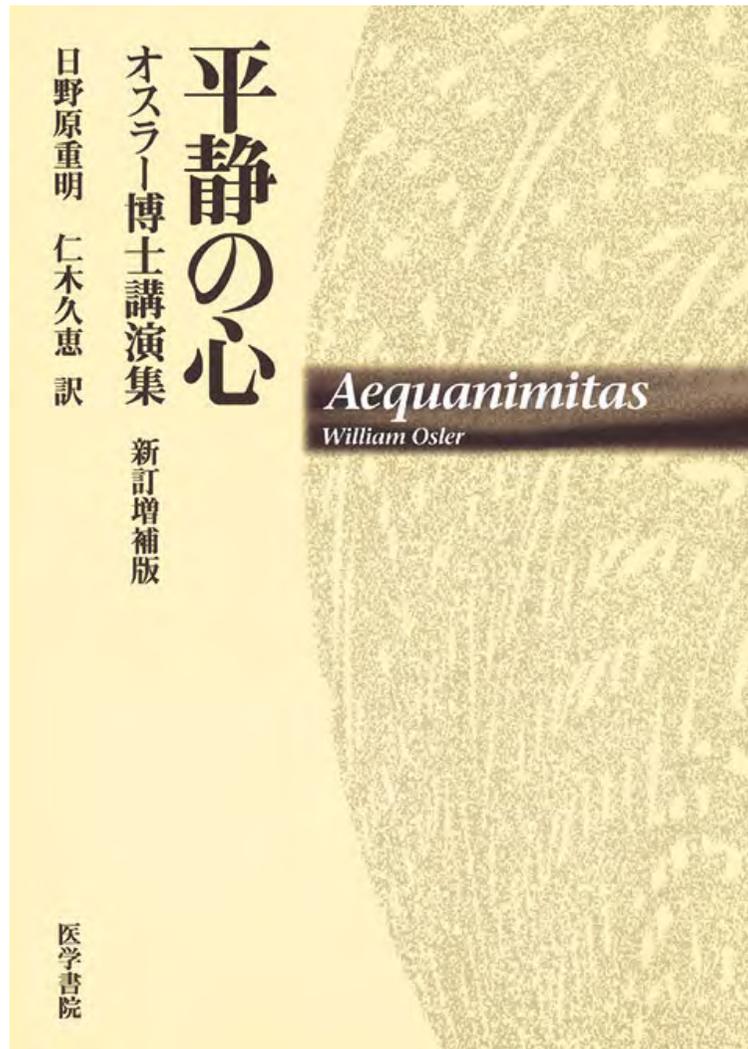
Whole Person CareでのCureとHeal

		Cure 白い蛇	Heal ピンクの蛇
患者	問題	症状・機能障害	苦悩
	可能性	治癒	癒し
	行動	執着	手放す
	目標	長生き	成長
	自己像	疾病の影響を受ける	病に取り組む
医療者	焦点	疾病	病いのある人間
	コミュニケーション	デジタル/内容	アナログ/関係性
	存在	有能な技術者	傷ついた癒し人
	認識	サイエンス	アート
	マネジメント	標準化	個別化
	過程	単純	複合的

医療におけるサイエンスとアート



William Osler
(1849-1919)



- ・医学はサイエンスに支えられたアートである。(序文、日野原)
- ・医学は一つのアートとしてヒポクラテス以前にかなりの大発展を遂げていた。すなわち解剖学や生理学などの基礎学問がなかったにもかかわらず医学はかくも進歩していたことである。(p73)
- ・私は医学の基礎となる科学サイエンスと技術アートを相互に関連させようと一生涯努力し続けてきた。(P524)

第10回 日本Whole Person Care 学術大会

アートがもたらす医療の未来
～「医療はアート」ってどういうこと！？

日時: 11月9日(土) 13:30-16:30



日本 Whole Person Care 研究会

Whole Person Care Association Japan (WPC-J)

【第1部】

13:40～14:00

①講演：アートがもたらす医療の未来

安次富隆先生

(昭和大学メディカルデザイン研究所 所長)

(多摩美術大学 プロダクトデザイン専攻 教授)



日本 Whole Person Care 研究会

Whole Person Care Association Japan (WPC-J)

【第1部】

14:00～14:30

①鼎談：アートがもたらす医療の未来

「医療はアート」ってどういうこと！？

- ・ 安次富隆（昭和大学／多摩美術大学 教授）
- ・ 大滝周（昭和大学メディカルデザイン研究所 副所長）
- ・ 土屋静馬（昭和大学 国際交流センター 教授）



日本 Whole Person Care 研究会

Whole Person Care Association Japan (WPC-J)

医術と美術の共通点(!?)

1. 人間が対象である
2. 人間に必要な“術”である
3. 同じ現象になるべく、同じことをしても、
同じ現象を生み出すことはできない
4. 創造性が必要
5. 過程を重んじる

**休憩
(10分間)**

【第2部】

14:55～15:40

グループワーク

「臨床現場へのアートのまなざし」

テーマ①アートが変える身近な医療

テーマ②医療がアートってどういうこと!?

司会:土屋静馬、大滝周

ファシリテータ:三好智子、三原弘、田中佐知子、
大滝周、土屋静馬



日本 Whole Person Care 研究会
Whole Person Care Association Japan (WPC-J)

グループワーク作業説明

14:55～15:40

- 1、これからグループに分かれて、ブレイクアウトルームにてテーマ①②について討議をしていただきます。
- 2、まずグループにわかれたら書記と発表者を決めてください。(複数人でも可)
- 3、司会はファシリテータが行います。
- 4、作業時間は15:40まで(40分)です。
- 5、最初はテーマ①のみについて発表してください。発表時間は3分です。1～5班にまとめて発表いただき、まとめて質疑応答を行います。(テーマ②は総合討論で)

討議テンプレート① (Googleスライド)

テーマ①

“アート(デザイン)”が変える身近な医療 1班 書記:、発表者:

日常診療の現場を患者さんのため、医療者のためにあらためて見直す

「なんで〇〇って、◇◇なんだっけ？」→「◎◎の方が良くない？」(→「だって△△だし」)

(例:なんで”点滴棒につけるシリンジポンプ”って、“横向き”なんだっけ?)→”縦向き”良くない？

(→だって、幅取らないし、患者さんの移動が楽でしょ))

GoogleスライドURL:

https://docs.google.com/presentation/d/1IPQLr2Cz6MZsrBAjxEP5kLdxXBKXCQplm9P6_F8BqV4/edit?usp=sharing

URLはチャット欄に貼り付けます！

討議テンプレート（Googleスライド）

テーマ②

医療はアートだ！って

① どういうことだと思えますか？

② それはどのように現場（医療の質）を変えるのでしょうか？

テーマ2については個別の発表はありません。
総合討論の中で全体的に伺います

【第2部】

15:25～15:55

グループ発表

各グループ 発表3分

全体質疑応答 15分程度



日本 Whole Person Care 研究会

Whole Person Care Association Japan (WPC-J)

【第2部】

15:55～16:25

総合討論

大会テーマ:アートがもたらす医療の未来
～「医療はアート」ってどういうこと!?



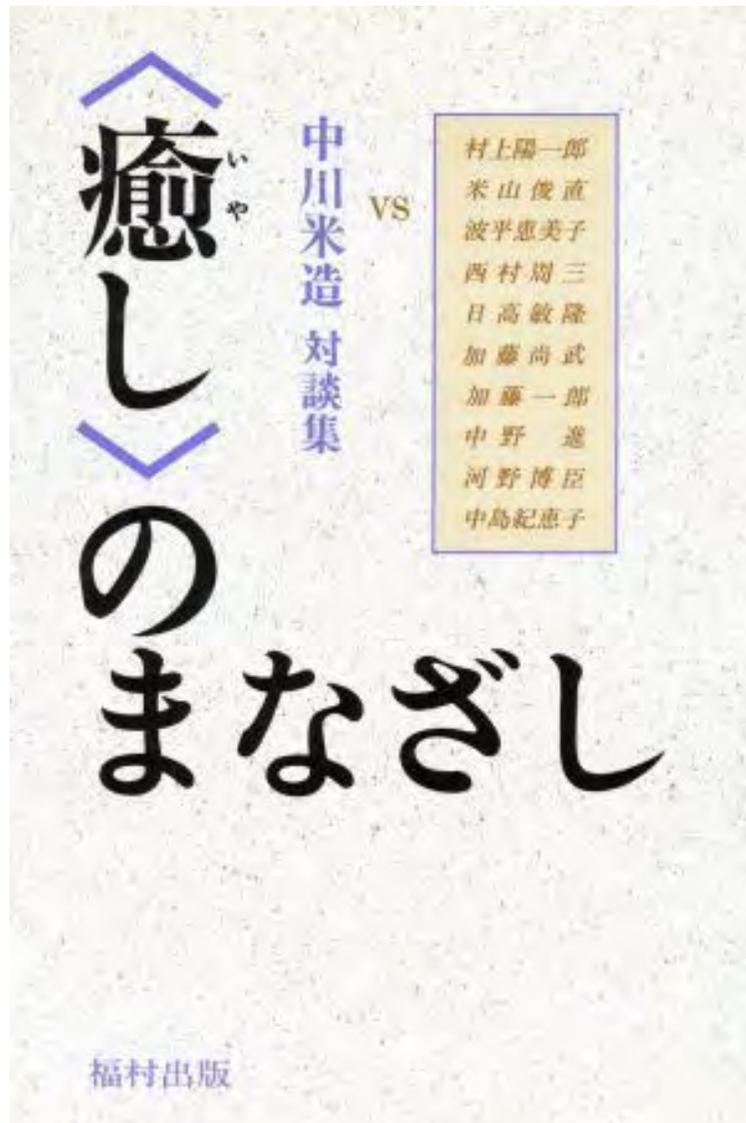
日本 Whole Person Care 研究会

Whole Person Care Association Japan (WPC-J)

医療におけるサイエンスとアート



中川米造
(1926-1997)



福村出版、1989年

・病気というのは極めて社会的な関連性の高いものです。社会的な医療制度の中で全て問題が扱われ、逆に制度そのものが病気を作り出しているところがある。一方で病気というのは大変個人的なものだと思ふんです。病気と患者の関係というものも極めて個別的にあるべきところがあります。そうすると一方に社会的な病気があり、一方に制度化された医療がある。その狭間に個人の患者と個人の医者がある。(p16、改変)

【第2部】

16:25～16:30

事務連絡



日本 Whole Person Care 研究会

Whole Person Care Association Japan (WPC-J)

日本Whole Person Care研究会



日本 Whole Person Care 研究会
Whole Person Care Association Japan (WPC-J)

I 設立経緯と概要

この度、日本Whole Person Care研究会を創設しました。Whole Person Careとは、カナダ・モントリオールにある、有名な伝統あるマギル大学 (McGill University) 医学部で開発された教育プログラムです。それは知識を必要とする「治療 (Curing)」と知恵を必要とする「癒し (Healing)」の統合を目指しています。これまでの医学教育では、診断・治療を中心に教えてきました。病気を診断・治療し、問題が起きた時にはそれらに対処し、悪いところがあったら元に戻すという問題解決型のアプローチです。この場合、患者は医療従事者に頼り、力は医療従事者にあります。しかし、これだけでは十分ではありません。癒しというもう一つのアプローチとなります。これは病気としっかり向き合い、病気と共に人間として成長し、悪いところを元に戻すには、変化を受け容れることを支援することです。この場合、患者自身が力の源になります。癒しは医療従事者の関係性の中で促され、医療従事者がそれを支援することになります。これが癒しの概念です。Person Careの教育では、治療と癒しの両方をバランスよく提供することのできる医療従事者を育てたいと考えています。

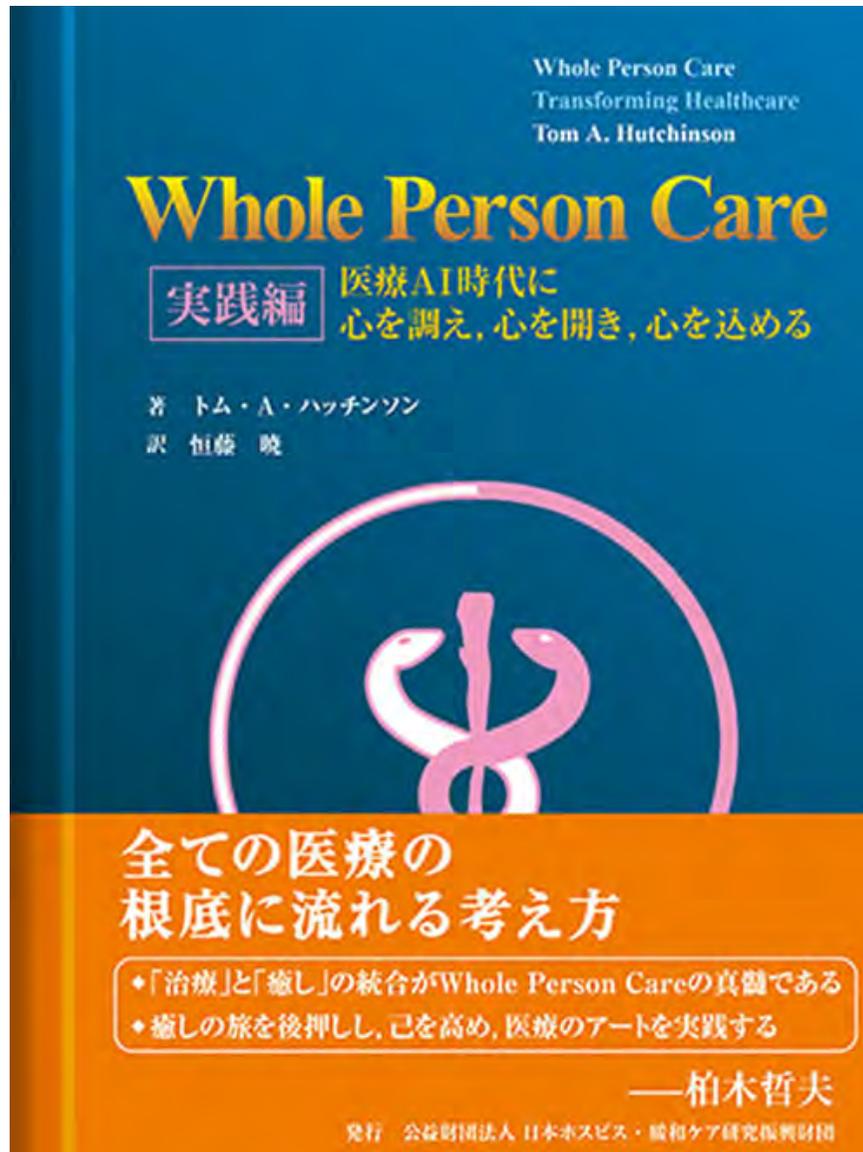


読書会 (年4回)
次回: 2月予定
通常は第1週金曜
19:00~20:30

次回学術大会
2025年3月予定

<https://www.hospat.org/wpcj-index.html>

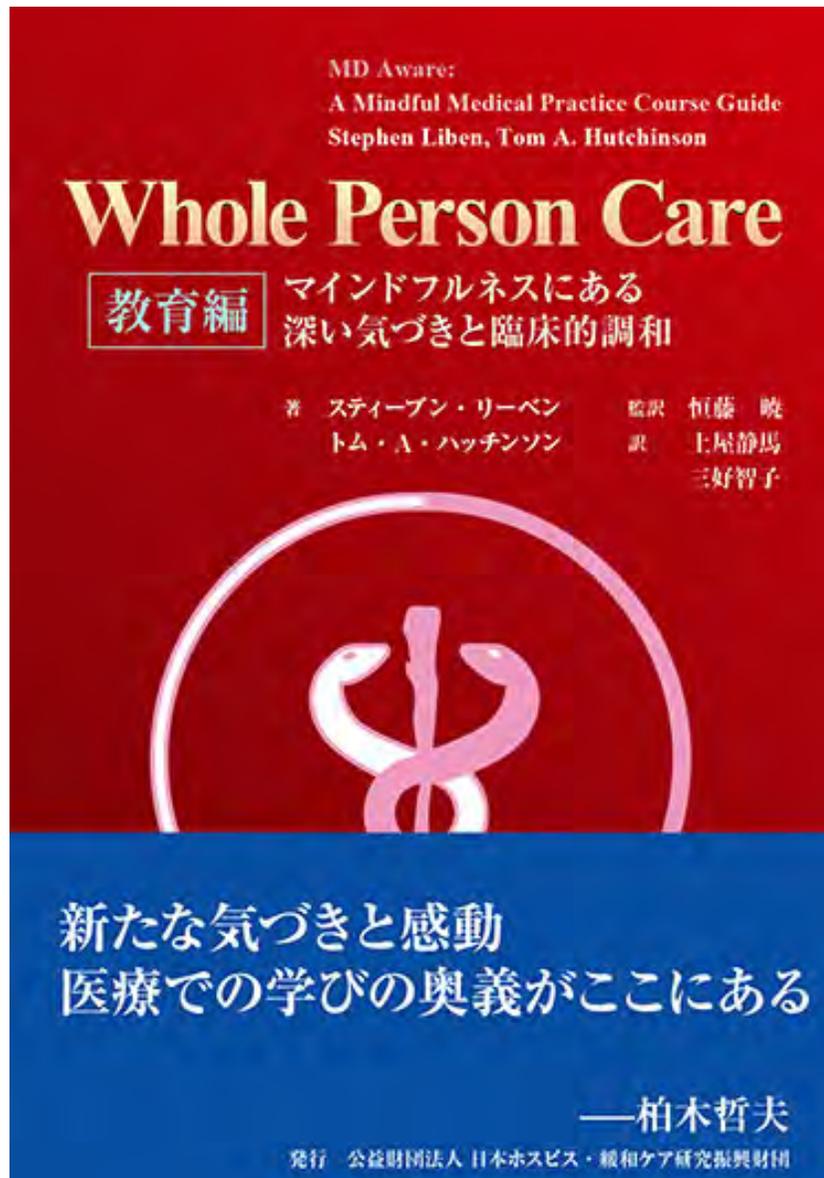
Whole Person Care 書籍第2弾



- ・『Whole Person Care 実践編』
医療AI時代に
心を調え、心を開き、心を込める

トム・ハッチンソン著、恒藤暁訳
発刊：ホスピス財団

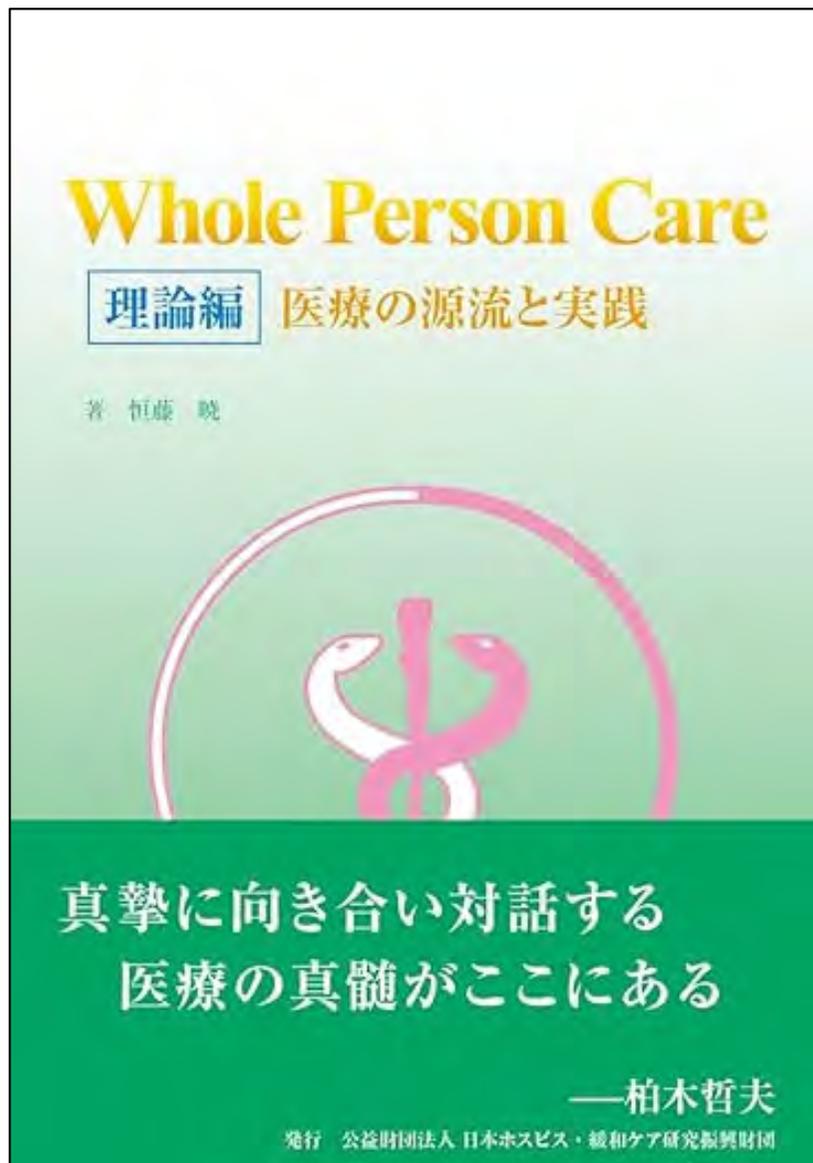
Whole Person Care : 教育編



『WPC教育の概要を教えて欲しい』と何度も言われてきたが、**断固拒否**してきた。なぜなら**教育指針**だけ提供してどのように利用するかを伝えなければ、**簡単な食材のリスト**だけを伝えて料理方法を教えないよ**うなもの**である』

(Whole Person Care教育編, まえがき)

Whole Person Care : 理論編 (新刊)



Whole Person Careの概念
からマインドフルネスの理
を知り, ホスピス・緩和ケア
が示してきた癒し (healing)
の本質を学ぶ

Whole Person Care
(WPC) シリーズ第3弾!

日本医学教育学会機関誌：『医学教育』特集



第52巻4号(2022. 8月)

特集：「苦悩する患者と向き合うための医療者教育をどう実現するか？」

1. マギル大学医学部のカリキュラム開発の歴史と“**Healer (癒し人)**”の役割を担う医療者の育成
2. 結局、マインドフルネスは医療者教育でどう活かせるのか？
3. **Whole Person Care**教育
4. 気づきと臨床的調和
5. 苦悩する患者への応答

URL:https://www.jstage.jst.go.jp/browse/mededjapan/53/4/_contents/-char/ja



6th International Congress on Whole Person Care in Montreal

2025年 秋！？

